

いとおいしい

教育・昭和 50 年卒 室崎 眞

昨年 3 月に定年退職をして、現在再任用ハーフ勤務 2 年目を迎えている。

少し生まれた時間の使い方に、自分でも驚いていることがある。これまで、あまり親しみを感じていなかった農作業をするようになったことだ。年老いた親の代わりにというより、結構進んで取り組んでいる。

植えたい野菜を自分で決め、植えたい所に植える。植え方や世話の仕方は、種袋の説明やインターネット、通りがかりの畑からヒントをもらうが、結構「適当」。だから、季節外れのニンニクを植えて、失笑されたこともある。植えた後で、支柱が必要な物と分かり、場所的に悔いるなど、まだまだ「素人」。

こんな気まま農法であるが、自分の野菜へのいとおしさはプロ並みと感じている。トマト、なすび、スイカ、きゅうり、タマネギ…。こうした定番野菜だけでなく、青じそ、サラダごぼうなんてマイナーな野菜にもチャレンジしているから、可愛がる相手は多い。

水やり、肥料やりに加え、草取りの忙しさ。重い耕運機も駆使する。手間をかけたなら可愛くないはずがない。さあ、今日はどれだけ伸びているかな？そろそろ間引く時期だ。そして、それらの短くか弱い間引き菜さえも、いとおいしいから始末に負えない。どう使えるかも分からないのに、捨てられず洗って一本一本の根っこを切っている。

自分で育てるということは、こんなにも情が移るのだな…。我が子を育てている時とは違った感覚で、新たに育てることの深い意味を感じている。さて、いとおいしい「青じそ」の間引き菜をどんな料理に使いましょう。